

2018 スーパーGT 第3戦
鈴鹿サーキット
2018年5月19日(土)

予選 来場者: 20,000人 天候: 晴れ

2018年スーパーGTシリーズ第3戦の舞台は、鈴鹿サーキット。例年鈴鹿は、8月に1000キロレースとして行われていたが、今年は、この時期に300キロレースとして開催される。天候には恵まれたものの、気温は低めのコンディションだった。1号車は、練習走行の段階からレクサス勢のトップタイムをマーク。その勢いそのまま、午後の公式予選に臨み、4番手タイムをマークし、決勝は2列目のグリッドからスタートすることとなった。



- ニック・キャンディがQ1のアタックを担当。路面温度が予想していたよりも低めであったので、タイヤのウォームアップを入念に行い、1分45秒595を記録。5番手でQ2進出を果たした。
- 平川 亮もキャンディと同じく、タイヤのウォームアップをしっかりと行ってからアタックを開始。Q1から一つポジションをアップして4番手に食い込んだ。
- 練習走行の段階から順調にプログラムを進めることができ、レクサス勢の中で最上位グリッドから決勝をスタートする。

DRIVER	Car No.	Qualifying 1		Qualifying 2	
平川 亮	1	P5	1:45.595	P4	1:45.181
ニック・キャンディ					
天候	晴れ/ドライ				
気温/路面温度	気温: 20-18度C		路面温度: 36-28度C		

平川 亮 (1号車ドライバー)



「クルマのフィーリングには満足しています。朝のフリー走行から順調です。チョイスしているタイヤは、ゆっくりとウォームアップする必要があるもので、予定どおり計測4周目にアタックをかけてタイムを出しました。4番手は、良いスターティングポジションであると思います。決勝は、強いので、十分に表彰台を狙えるポジションだと思っています。頑張ります」

ニック・キャンディ (1号車ドライバー)



「現状、自分たちが持っている最大のパフォーマンスを発揮できた結果だと思う。チームが素晴らしいマシンを用意してくれて、われわれドライバーもミスなく、良い仕事ができただ。タイムには、満足しているけれど、ホンダ NSX が予選で速さを見せている。決勝では、同じように NSX が速いかわからないけれど、われわれは、予選と同じように自分たちの力を最大限に発揮するのみ」

小枝 正樹 (1号車エンジニア)



「ドライバーは、マシンのセットアップに満足してくれています。グリッドポジションも良かった。しかし、今回の NSX は、岡山の開幕戦のように予選で速かった。決勝でも同じような状況だと、われわれには厳しいレース展開となりますね」

関谷 正徳 (1号車チーム監督)



「点数的には120点の予選結果だ。チームメイトの36号車とともにQ2へ進出し、レクサスのトップタイム、最上位グリッドを得て決勝を迎えることとなった。自分たちにとっては、とても良い仕上がりの。しかし、前の3グリッドを占めたホンダ NSX とは、ちょっとタイム差がある。決勝でも彼らは強いかもしれない。その牙城を崩して、表彰台の一角を是非得たいと考えています」

館 信秀 (総監督)



「さすがに、2017年のチャンピオンクルーの仕事だ。けれども NSX が速すぎる。これには、お手上げだ。しかし、決勝ではこのままでは終われない。レクサスのトップとして、素晴らしいレースをお見せしたい」

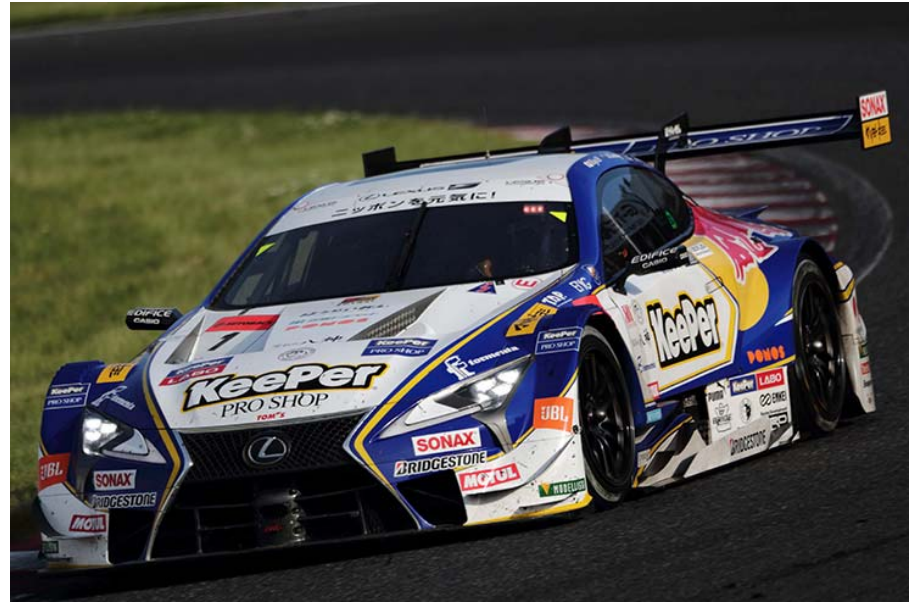
LEXUS TEAM KeePer TOM'S

2018 スーパーGT 第3戦
鈴鹿サーキット
2018年5月20日(日)

決勝

来場者: 33,000人 天候: 晴れ

LEXUS TEAM KeePer TOM'S チームのカーナンバー1は、レース序盤から積極的な展開で上位スタートのNSXの牙城を崩して順位をアップ。ファーストスティントでピットイン直前には2位。セカンドスティントで一時5位まで順位をダウンするが、再び追上げて今季二度目の3位フィニッシュを果たした。



- ニック・キャンディがスタートドライバーを担当。抜群のスタートを決めて1周目に3位へ。アクシデントによるセーフティカーランが終わり、翌周には2位へ躍進。52周レースの24周を終えてキャンディから平川へ交代。
- コースインした時点では4位だったけれど、温まっていないタイヤではグリップが低く、一時5位に後退。
- 全車がピットインを終え、そしてタイヤに熱が入って本来のペースを取り戻した平川は、3位に順位を挽回、そのままポジションをキープしてゴール。
- トータルポイント26点。シリーズランキング3位に位置している。

DRIVER	Car No.	Race Result / Fastest Lap	
平川 亮	1	P3	1:51.505
ニック・キャンディ			1:49.426

天候	晴れ/ドライ	
気温/路面温度	気温: 21-23度C	路面温度: 34-30度C



平川 亮 (1号車ドライバー)

「ニックと同じ少し硬めのタイヤでコースインしたので、温まってパフォーマンスを発揮できるまで時間がかかり、何台かに先行されてしまいましたけれど、その後3位まで順位を戻せました。ペースは安定していたと思いますが、36号車のペースよりも遅かったため、それがどうしてだったのかを分析する必要がありますね」

ニック・キャンディ (1号車ドライバー)

「予選と同じく、自分たちが持っているパフォーマンスを決勝でも発揮できた。チームのおかげでマシンは、最高の状態だった。3戦を終えて2回の3位は悪くない結果だけれど、やはり優勝できていないというのが残念。これからハンディウエイトは厳しくなっても、常に勝つつもりで臨みます」

小枝 正樹 (1号車エンジニア)

「やはり、決勝でもNSXは、速かったですね。その状況下で3位フィニッシュできたので、まあ、良いレースが展開できたかなと思いますが、後半のペースで36号車が1分50秒台を連発しているのに対して、1号車が51秒台でしたから、その点を改善する必要があります。次戦から燃料リストラクターが装着されます。タイ、ブリーラム(チャン・インターナショナルサーキット)は、直線が長く、トップスピードの領域でリミットされる苦しいレースとなるでしょうが、それでも頑張れるセットアップを準備します」

関谷 正徳 (1号車チーム監督)

「チームもドライバーも完璧な仕事、レースができたと思います。ニックのアグレッシブな走り、そして亮のシュアな走り。NSXに対して戦いを挑んで二度目の表彰台をゲットできたことは素晴らしい結果です。これで、ランキング3位。この先は、耐えながらも着実にポイントを取って行かなくてはなりません。まずは、タイでポイントゲットを目標にしています」

館 信秀 (総監督)

「ミスもなく頑張ったという申し分のないレースでしたね。2台のNSXが前にいるのは、もちろん悔しいですが、レクサスのトップでフィニッシュできた点については、良かったと思います。本音をいえば、リストラクターが装着される前に一回優勝したかった。これからの3戦は耐えて頑張るという厳しい戦いです」

※次戦は、6月30日-7月1日にタイのブリーラムにあるチャン・インターナショナルサーキットにおいて、シリーズ第4戦が開催されます。

以上